

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成16年  
3月号

毎月23日発行  
通巻403号

(題字 矢追日聖)

★発行日 平成16年3月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★振替口座 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



岩木山麓の水芭蕉 青森県 弘前市 石田 勝利さん撮影(文・5頁)

昭和55(1980)年初め頃の座談会から

## 大倭紫陽花邑に住んで(最終回)

「前進友の会」の皆さんを迎えて

大倭会館にて

### 喜びを持てる生活を

法主 施設の方で私は理事長や施設長ということになっておりますが、例えば、新しい建物の便所や風呂場にしても、「このところをこうしたらいいなあ、ああしたらいいなあ」と、職員さんの考え方によって技師を連れてきて設計してくれています。そのことは、私は何も知りません。後で見ても、「ああそうか、こうしたら便利になったなあ」と言うだけなんです。

入っている身体障害者でも世間で売っている既製のままの車椅子を使っているのはほんのわずかです。車椅子の寸法を職員さんが設計してくれているんですよ。「この人にはこういう方法でいいか」とか、「身体がこれだけ変形しているんやから、車椅子を別注で作ろうか」とか、そういうことは職員さんが考えてやってくれています。

職員さんは私の気持ちも、ある程度分かってくれているんだと思います。

岸野春子 職員の中に、権力的な発想をする人がいるとしても、それも一つの個性という感じ、それはお互いさまだから個性同士の切磋琢磨の中で、それぞれが好きなように、わりとのどかにやっているとこの雰囲気でした。

ところがこの頃、厚生省がきちんとお金を出してくれるようになってきて、この施設だけではなく全国的に、すぐく行き届いた指導をするようになってきた

んですね。職員の待遇も、世間並の職業として通じるぐらいに、ここ十年でものすごく良くなってきました。その反面、いろいろ指導してくるんですね。

**法主** 法人を設立した時から、必要とされる一通りの規則はあったんですが、私はそんなことを表に出したことがないし、職員さんも知らなかったんですね。

「入居している人にとっては、ここが生活の場です。だから死ぬまで喜びを持った生活が出来るように、あなた達は世話をしてあげてほしい」と、職員さんにはずっとそういう私の気持ちを言うだけで来たものですからね。

ところが、ここ二、三年の間に行政の面がものすごくうるさくなってきました。

経営主体は法人ですが、行政の施設ですから内容の一つ一つを厚生省が出てきて調べるんです。労働基準法から見た勤務体制の問題とか、世間並と同じ感覚で上から押さえつけてくるんですね。例えば、就業規則でも一条一条、「この項目がいけないからこうしなさい」とかね。

私自身が費用を出している訳ではなくて公費を使っているから文句も言えないし、国の言う通りにしないとしようがない。だから、世間並に組織の形だけをつくっていいこうやないかと言うておるんですがね。

そんなものの頭のない職員さんがほとんどでしたから、「今更なんやねん」という感じですね。(笑)

**岸野** 管理職の側にも働く側にも戸惑いがある訳です。ああ、こうしないとあかんものかと急に思い直してね。

**法主** まあ、気楽にいいこうやないかと言っているんですがね。(笑)

## 無駄を省いて真面目に

**法主** うちでは今まで、学歴は全然関係なく職員を採用していました。大学を出た人も義務教育だけの人も、どんな人でも初任給は全部一律、学歴は通用しないというやり方でこれまでは来たんです。一律で出発して、それから段々と給料を上げていたんですね。

それが先日、厚生省の監査があったんです。その時には学歴を一つの基準にした数字の見本まで持ってきて、「この通りにやりなさい」と給料の細かいところまで具体的に指導されるんです。

それからまた、就業規則で六十歳定年になっていくんですね。六十歳を過ぎた人は嘱託に切り替えないといけない。今までそんなことは問題なく、働けるまで仕事をしてきていたんですが、それをしてしまうと、「何が為に規則を作ったのか」と役所からは言われるしね。

職員さんへは言わないけれども、板挟みになつてしまつて難儀なことやなあと思つています。「管理職の悩みもあるんやで」と言つて昨夜も笑つていたんですがね。

まあ卒にはめられたらしんどいなあ。

**男性B** 指導がありますけれど、そんなに正直にならなくても良いんじゃないですか?(笑)

私の勤める病院は悪いように凶々しいんですが、良いように凶々しく行つたらどうですか?

**法主** そうやな、難しいところやな。でも、うちのような福祉の施設は定員によって措置費が国から来るんですから、言つてみればサラリーマン生活ですよ。その点は気楽ですよ。

その代わり、年度内にそれぞれの予算を使わないといけないんですね。私にしてみればこちらで

余つたお金を別のところで使おうかと所帯のように考えるんやけれどもそれは出来ない、それは違法になるんです。そんなふうには役所の仕事は官僚式で矛盾があるしね。まあ段々と実情に依じて、国も考え方を覚えてくれると良いんですが。

**杉本順一** この邑の中だけで生きていけませんからね。税金を使っているから仕方がないし、片一方では税金を納めているしね。

**法主** 税金といつても快く払っている人なんておらへんし、それをこっちは使っているんやからね。社会の人からの税金で賄っているんやから、出来るだけ無駄を省いて真面目にせんとね。

## 創始者の気持ち

**女性A** 聞きかじりの話ですけども、福祉関係の仕事を最初にやり始めた人というのは、元々お金になるような仕事ではないから、かなり自分の気持ちを込めてやり始めた方が多いというふう聞いています。それが二代目になつてくると、世の中が近代化された時期と合わさつて、やっぱり儲け主義みたいなのと一緒にややこしくなつてきているそうですね。

**法主** ちょうど今がその時期ですね。公立のところは別ですけど、私立の法人は世襲みたいな形でやっているとが多いです。親が創始者で、その息子さんか後を継いでいるケースですね。それで今は二代目ないし、三代目といったところですよ。

だいたい日本で施設として始めているのは、古いところで終戦後の昭和二十二、三年の頃です。初代の人はその仕事をやるんですから、少なくとも五十歳は過ぎています。そんなに若い時には出来ませんからね。そうすればいいところで十

年ないし二十年といったところでは、その間に息子さんが職員か指導員という形で入っているところと勉強しています。ところが親父さんが死んだら借金は抱えているわ、何とかしていかんなんわとぼちぼちとソロバンを弾き出します。経営ということを考えてくる。息子からしてみたら、これだけ親父は犠牲を払ってやってきたのに自分のところに見返りはまったくない、となるんやろなあ。

ここはまだ初代の私が生きていますから、今のところそのまま来ていますけれどね。

**男性B** 老人ホームは儲かると聞いたことがあります。

**法主** 県の老人福祉課の方も笑っておりました。儲かると聞いて、特別養護老人ホームがつくりたいと言ってくる人が多いらしい。うちは自腹を切っているぐらいですから、どこにそんな儲けるところがあるんかと言いたいですけれどね。(笑)

一年がかりで厚生省が全国の老人ホームを一念に調査したら、特別養護老人ホームが一番お金の問題が多かったみたいです。いろんなことが表沙汰になっていました。

それは年金があるし貯金を持っているから、施設とその幹部二、三人さえ腹を合わせたら、本人は痴呆症で貨幣の価値が分からない、数字が分からないんですからね。例えば百円の物を買って来て、「おばあちゃん千円で買って来た」と言えば「あ、そうか」で終いですから。

施設長の会議などでそういう話を聞きますし、いろんな悪知恵をつけてくれるけれども、そんなのは利巧な人のやることですね。私はアホやと笑われているんですよ。

家族と一緒に住んでいる年寄りであれば、年金は家族の生活費として大抵入れていますよ。それに対して、特別養護老人ホームの入居者は、生活

## 大倭会へのおさそい

今年は大倭会の発足以来20年目です。改めて趣意書を読み直してみると、今日の世相にもそのままあてはまることに驚きます。

### 大倭会 趣意書

およそ人の世にあって、平和と幸福を求めない人はありません。しかし現実はどうでしょうか。私たちが、小さくは家庭や地域社会、大きくは国際社会を眺めるとき、一日として争いのない日はないのです。

戦後もすでに40年になろうとしています。「物」は豊富になりましたが、それとひきかえに「心」の世界はますます貧困となり、人と人のつながりは、目に見えて希薄となってきました。今ほど私たちが、助けあい協力しあって生きる必要にせまられている時代はありません。

矢追日聖は敗戦と同時に、自然の摂理に基づく社会福祉の実現を願って活動をはじめました。日聖自身が戦後の混乱期から、いろいろな事情の人々と暮らしはじめて40年がたち、ここ大倭の地に「相互扶助」の心を大切にされた終身保障の地域社会が、時と共に生まれ育ってきたのです。

「競争・対立」の心は憎しみを生み、争いを生みます。

「相互扶助」の心は愛を生み、平和を生みます。

本会は「大倭紫陽花邑」の基である「助けあい」の精神が大切であることを共に自覚し、「仲良き社会」の実現を願って行動する会であります。この趣旨に賛同される限り、宗教、思想、信条を超えて入会を呼びかけます。「より良き社会」の実現を願って行動しようではありませんか。

昭和59年4月

大 倭 会

大倭会 年会費 1万円 郵便振替01060-6-31705

※『おおよまと』の購読だけを希望される場合は3千円

郵便振替01050-6-67002

が保証されている訳ですね。けれども年金は個人のもの、だということ(※当時の制度では)別に持っている。それで、施設に入っている年寄りにもある程度負担させようという議論が起こつてきています。でもまあ、これは当然のことなんです。ここでも亡くなったという通知をしたら、普段覗きにも来ない、面会にも来ないような人が、

「親族ですが、お金はいくら残っていますか？」と寄ってくるんですよ。お金のことになるって集まって来る。それで連れて帰って葬式をするわけでもない。大倭のお墓に納めてあげた人もたくさんいますよ。

塚崎医師 長時間ありがとうございました。

(完)

こもれる魂魄の地をたずねて(十六)

# 吉野山・町と天誅組(忠)の地

兼田 隆

今回は奈良県にもゆかりがあり、27歳の若さで天誅組の総裁となつた吉村寅太郎(虎太郎)と書かれている場合もある)の魂魄の地をとりあげました。

「天誅組!? 新撰組の間違い違うの?」といわれそうな名前ではありませんが、幕末の頃は多くの諸隊が結成され、その中でも天誅組は維新の魁として南大和を舞台に決起し、最後は幕府軍に包囲され壊滅します。

その総裁として激動の幕末、討幕の魁になろうとした過激な志士の一人が吉村寅太郎なのです。生まれ故郷は高知市内より80キロ余り西の東津野村という山深い村で、寅太郎を含め多くの維新の志士を輩出しています。この村でまず出迎えてくれるのが、今にも動き出しそうな迫力のある寅太郎の銅像です(写真①)。右手に剣を持ち、どこかエネルギー溢る印象をうけます。近隣のトンネルには天忠トンネルなるものもあり、2キロあまり北には誕生地や墓石も存在し、寅太郎を大いに誇り、顕彰しています。

文久3年(1863年)8月14日、京都の方広寺にて寅太郎は38名の志士たちと共に公卿の中山忠光を首領として天誅組を結成します。精神とはこうです。(天(神)の心)に忠実に生きると言う事、すなわち「天皇の御心」の為にということだそうです。(写真②)京都三条、吉村寅太郎寓居之址) 天誅組は孝明天皇の大和行幸の先発隊にならんと奈良の五条を目指し進軍します。大阪の堺を経て五条に着いた一行はまず代官所を襲撃します。

しかし、4日後の8月18日、京都では世に言う八・一八の政変があり、天皇の大和行幸は中止になります。天誅組はただの反乱軍(朝敵)として幕府軍より鎮圧命令が近隣諸藩に出されます。

天誅組一行は、高取城を攻撃しますが、寅太郎は大混乱の中、味方の銃弾を腹部に受け重傷を負い、駕籠の中から指揮をとりまします。

その後、十津川の山岳地帯を逃走し敗走を重ねて、最後の

地である東吉野村鷲家にたどり着きます。鷲家には、多くの志士たちの最後の様子を描写した説明書きや石碑が多く点在しており、寅太郎も非業の最期を迎えます。(写真③、④)原

墓處とは、はじめに埋めた所の意、無人の小



②



①



④



③

吉野山 風にみだるる もみじ葉は

我が打つ太刀の 血煙と見よ

吉村 寅太郎

屋に隠れているところを幕府軍に見えられ、自決を望みますが許されず、その場にて銃口の前に戦死します。絶命する時「残念……」と言葉を残したので、寅太郎の事を「残念大将」と名付けてこの地では信仰したといわれています。

昨年、五条市では明治維新発祥の町として、天誅組の義挙140年目を記念して数々の展示やイベントを催されたことをここに追記しておきます。

平成16年2月16、17日

## 「私という自分探し」の旅 京都・奈良・紫陽花邑へ

青森県弘前市 石田勝利

「汝の願いを叶えてつかわそう」と、物語（※『おおよまと』昨年5月号「私という自分探しの物語」）の事件が現実のものとなってしまった。修学旅行以来、四十年ぶりの京都・奈良への旅は時空を超えて、先祖の住した地への旅である。

数年前から行きたい願望は持っていたものの、淡い夢のまた夢と諦めていただけに感激そのもの、おまけにと言っては何だが、妻も同伴。何故なら二人分の旅費もさることながら、知人友人、お客様の面前で「私ネ、何十年も青森県から出たことないのヨ」「新婚旅行にも未だ行つてないのヨ」と話し散らす妻。まるで大倭の昇ちゃんを思わせる態度だ。実際本当のことを言つてただけに頭が上がらない。

ただ、私には一つ不安材料があつた。四年前から走つたことがない。歩いても八十歳の婆さんにも追い抜かれるほど、悔しくも情けない状態。口だけは人一倍走るので、何とか周囲に気付かれないようにと苦心してきた。去年、検査入院で前立腺の異状を告げられる。少しは快方に向かつていくというものの、全く自信がない。

不安を抱きながら、猛吹雪の中、夜行列車に乗つた。昨日処方してもらつた頼みの綱の薬、大切に隠しすぎ、とうとう忘れてしまった。落ち込んで一夜を過ごし朝を迎えた。琵琶湖も空の色も私の心も鉛色でドンヨリしていた。

その時、雲の切れ間から三本の光の柱が湖面に

降りてきた。湖面に三ヶ所、砂金をまいたようにキラキラ輝いている。その美しさに二人共見とれていた。「西洋ではこういう現象を、『天使の梯子』と呼んでいるんだ」と話していると、スーツと柱は消えた。カメラに撮り忘れる程、見とれていた。

ドジ二連発だと思いつながら京都駅に降り、直ぐに、私の先祖が四百年前に住んでいた醍醐寺の理性院へと向かった。座主の住む三宝院隣に見つけることができた。「別格本山理性院」と書かれた門を入ると、深紅のエプロンをつけた数百体の地藏さんが將軍地藏尊を取り囲んでいた。圧倒される光景を目にしたが、当時の情景も脳裏に甦る。

それは太閤秀吉の全盛時で、後奈良・正親町・後陽成と三代に亘る天皇を、この地で接待をし、もてなしていた御先祖様にとつて良き時代。関ヶ原の戦いの境に、石田三成次男の源吾を連れ、北の津軽の地へと旅立つことになり、ここを去つた。華やかな京の都を後にする心情は、さぞや名残り惜しかったろう。

しかし十五年後、徳川幕府は「禁中並公家諸法度」を發布し、天皇の自由と資金を奪つた。御所に軟禁状態、石高もたつた三万石にされ、これが明治まで続いたのである。十八代前の御先祖様は津軽に来て良かったのですと、広大な境内を二時間半歩きながら、想いを伝えた。

そう、私は歩いているのです。何年ぶりの感触を味わつてます。何かしらの力が働いたとしか思えません。この旅も仕組まれていると感じながら、清水寺へと向かった。三年前、清水寺の森管長と約束したことを果たすために。

弘前で、障害児父母の会の招きで森管長の講演会が催された（氏の書を販売し、収益金六十二万円全額が募金に供された）。私は、ある文書の写しを、氏へ手渡した。氏は驚いた。そりゃそうだ

ろう、失われていた文書だから。

実は、清水寺の創建者は征夷大將軍の坂上田村麻呂だが、当時の記録の一部が消されている。蝦夷征伐というのは、朝廷と東北アラハバキ族との二十二年間の争いである。しかし決着がつかず、田村麻呂は和睦を提案して、アラハバキ王のアテルイを京に呼ぶ。ところが朝廷側は負け戦のイメージを恐れ、京に来たアテルイを殺害してしまい、関連する証拠隠滅を図つた。

しかし六百年後、田村麻呂の末裔にあたる愛姫が仙台伊達政宗の正室を迎えられた時、持参した中に当時の古文書もあつた。それには出兵した人数より、文化人・伝来間もない仏教僧・観音信仰・織物技術者等について事細かに人数も書かれていて、朝廷に裏切られた田村麻呂の心情が随所に感じとれる。

森管長は「東北に清水寺の本尊である十一面千手観音が多いのが、理解できました。京都においての時、是非、当寺へおいで下さい」と言われた。その約束を果たし、田村堂に参拝することも出来た。舞台では、私には今年初めてとなる夕日に遭遇、京の街が朱色に照らされた。

清水坂を駆け下りるように、大倭紫陽花邑へと向かった。迷いうろたえながら、やっとバス停に降りた時は暗くなりかけていた。見知らぬ土地は外国と同じなのである。道順を尋ねようとしていたら、向こうから岸野春子さんが近付いて来る。到着の時刻も知らないはずだというのに来てくれた。夜は、十四名の皆さんから歓迎夕食会を催して頂き、頭の下がる思いでした。

翌朝、青山日元さんと共に、大倭神宮へ参詣させて頂いた。妻に、日元さんが張りのある口調で説明をしていた。実は、妻の目的は奇稲田姫の地

への訪れである。

長慶天皇が津軽相馬村に居を構える前、最後に寄ったのは浪岡町の南朝、北畠一族の浪岡城であった。その地に県内にただ一ヶ所だけ奇稲田姫神社がある。妻はその隣で生まれているのだが、不思議なことに立派な鎮守のわりには由緒謂れが全くない。町史にも記載されず、祭も二十数年前に一度だけ、それらしきことがあったとかなう。総代に尋ねたところ、元旦に「権現様」を祝うために集まるだけだと言う。さらには土地の人々は「キイナダヒメ神社」と、名前まで間違えて読んでいる始末である。この地のすぐ後ろに控える霊山松倉山にはスサノオを、眼前の霊峰岩木山には大国主を祀って、三神が一直線に座していることなど、誰一人理解できずにいる。

何故、伝承されなかったのか、その方が私には不思議でならなかった。その為に今回、この地を訪れたかったのである。

この日、同行してくれた高橋良美さんが「法隆寺に向かう前に、石上神宮へ寄つていきませんか」と言ってくれた。昨夜、物部守屋の話をした時、私に何かを感じとってくれたらしい。私としては石上神宮と法隆寺の方向が逆に位置しているため、一方を断念せざるを得ないところであったが、この一言で救われた。

古代より時間が止まり続けているような石上神宮に到着するやいなや、お使いの鶏達が一斉に鳴いてくれた。さすが神示を伝える鶏だけに賢い。私は物部一族の流れを引き継いでいる。十九年前の盆に、今は亡き父が「十三湖に連れて行ってくれ」と言い出した。後にも先にも、父から頼まれたのはこの一言だけだった。私の三歳の息子も一緒に、三世代でその十三湖日枝神社へと行った。ちょうどその頃「いつの時代に誰が何の為に：

深まる謎!!」と十三湖の大きな社殿と周囲一帯に及ぶ集落跡発見が新聞紙面をにぎわしていた。

スッポリと歴史から忘れられ、いや消されていた十三と父（私）との因縁を解明しようとしていた。二十年かけて空白にバズルを埋め込めような謎解きをして、少しずつ見えてきた。

二ギハヤヒは長髓彦の妹、三炊屋姫と結ばれ物部の祖となり、石上神宮に祀られた。

一方、兄の長髓彦（※法主様の本では長髓彦の一族の者）は津軽へ逃れ、その地を鳥見（登美）にあやかつて十三と名付けた。アラハバキ王国と呼ばれ、後の安東・安倍一族と続いて行った。ちなみに自民党の安倍晋三氏は安倍氏の末裔である。五世紀半ば、長髓彦の地、十三へ物部一派が治水技術と新穂の稲を携えて入植した。その一人が父（私）の先祖であった。その十年後に、神道を擁護して仏教に反対した本家、物部守屋が蘇我氏に殺され、百濟より導入された仏教に代わった。

千五百年経た今日、私はその百濟仏教の地、法隆寺へと足を踏み入れた。法隆寺は、写真で見るとは違っていた。地のエネルギーの強さを身をもって知る。百濟の街を切り取って据えてあると言った方が当てはまる美しい寺である。

勝った蘇我一族は、百年後には滅亡するとは思つてもみなかつただろう。負けた物部が東北、あるいは四国で生き続けるのも皮肉なものです。

最後に、東寺。私には初めてのお目通りだが、先祖の世代は幾度となく訪れている寺である。この回向院へ今回の旅の報告をしなければならぬ。回向とは、先祖の死後の幸福を祈り供養することです。千五百年を二日で巡らせてくれたことへの感謝

と、見えぬ力で手を引き、背を押してくれたことへのお礼を伝えたい。

でも一番のお陰は、最初から最後まで付き合ってくれた松本モトさんかなと、二日間を胸に夜行列車に乗った。平城京・平安京とめぐり、私の今世の役目を果たし終え、後は何も悔いはなしと眠りについた。深夜、ゴトンと列車はゆつくり止まった。「長岡」（新潟県）だった。

よし、今度は長岡京だ。紫陽花邑の皆さん、またすぐ行きます。

### ●表紙写真について

岩木山麓に水芭蕉が群生している場所があり、「県内でも一番目のランクだから写しておいた方がよいよ」と言われて、去年初めて足を運んだ。これほどとは、いささか驚いた。地元の人でも観光客も訪れる人はない。それもそのはず、弘前公園の桜満開日とピタリ一致しているのだ。勝負の軍配は、常に桜に上がっていたのだ。

## 第278回 大倭会文化行事

### 春の清水寺に アテルイ、モレを訪ねる

- 日時：平成16年4月18日（日）  
午前10時30分集合
  - 場所：清水寺仁王門（寺の入り口の門）
  - 交通：近鉄学園前8時58分発快速急行に乗り、西大寺駅で京都行き9時9分発急行に乗り換え。9時47分京都着。駅前18番乗り場から京都バス乗車、東山五条下車。徒歩10分。
  - コース：清水寺……アテルイ、モレ碑  
……付近散策
- ※注意 屋食は近くの店で外食したいと思います。  
小雨決行
- 世話役：湯浅芳郎 電話0742-48-3389

# 寸 莎

## 第58回

湯 浅 芳 郎 さん



### 読書と酒と俳句を一句

今回登場してもらうのは、大倭会文化行事のお世話役やあじさいの箱のボランティアを奥さんの晴子さんとされている湯浅芳郎さんである。

芳郎さんは、岡山県の北に位置する落合<sup>おちあひ</sup>という山村で、敗戦の一年前昭和十九年十月十七日、丁度村の秋祭りの頃に生まれた。九人兄妹の末っ子で「甘えん坊だった」という。長兄は、芳郎さん誕生の翌年の六月フライピンにて戦死された。父正一さんは「面白くお人好しで真面目で酒好き」というから、芳郎さんは多分にその影響を受けているようだ。母あやのさんは「しっかりした敵しい人だった」という。実家は百姓で「貧しいのは子供心に分かっていたが」、両親は勉強したいという子供達の希望を出来る限り叶えてくれた。

小学校のときの思い出に、「大人の世界は複雑なものだ」と思う出来事があった。校舎建てかえ申請のために先生方が建物の写真を撮っていたとき、憧れたったきれいな先生が、「この板も剥がしましょうか」とわざと校舎を古く見せるために言ったときだった。「子供のために新しい校舎を」という思いやりだと思っが、「人生とはこんなものか」と思ったという。芳郎さんの自分の内面、それに他者や社会の二面性を見る目がこの頃から芽生え始める。

中学では卓球部に属す。悪友ともよく遊んだが本が好きで読書に耽った。夏休みになると家の周りにある木陰にムシロを敷き、日本文学全集や世界文学全集を読破したという。高校では英語が好きで、英語クラブの部長だった。

大学は、岡山大学工学部電気工学科に入学。芳郎さんは工学部日本文

学科だと言って笑う。それ程に当時も日本のものやトルストイ、ドストエフスキーを好み、仲間と読書会を作って朝まで語り合った。半面ワンダーフォーゲル部に入り、一ヶ月も入山する事もあった。大学は奨学金やアルバイトで学費を賄い、学園紛争の直前の昭和四十二年に卒業。

その年大阪で関西電力に入社。二十七歳で同郷の晴子さんと結婚する。職場は姫路、堺、和歌山と転々とした。湯浅さん夫婦が社宅に入ると皆が寄って来て賑やかとなり、「和歌山では独身寮から静かにしてくれと苦情が入ってな、あべこべやな」と笑う。

企業戦士として働くことで、精神的に苦しいときもあった。現場からエネルギー関係の研究所へ移り、視察団として米国欧州七ヶ国を旅する。その間エイズや難民問題、公害問題など世界で起こる矛盾を目の当たりにした。

昭和五十二年に晴子さんの実家に起きた先祖に関する悩みで、社宅の隣人だった且田さん夫婦に相談し、大倭を紹介して頂いた。その事が縁で大倭殖産のお世話で家も建て、三十七歳のとき大倭の近くに引越した。霊界の事はよく分からないが、「宗教は福祉である」という法主さんの言葉に得心する。じわじわと法

主さんのされてきた事の凄さが感じられてきたという。

文化行事のお世話役は、百八十回目で法隆寺若草伽藍へ行つたとき、柴地則之さんが仕事との両立で、あまりに忙しい姿を見て、代わりに引き受けた。

平成六年、晴子さんの故郷の美甘<sup>みかん</sup>の村の村起こしアドバイザーとなり、風力発電所を造つた。丁度その頃、調子を崩していた母あやのさんにも毎月のように会えたのは良かった。

五十六歳のとき胃癌になる。生死の間にはほんの一点の結び目しかなかった感じがし、死を間近に感じた。しかし大倭病院の松本院院長に手術のセカンドドクターとして立ち合っ頂いたり、鈴木母さんが入院中の病院を抜け出て見舞に来て下さつたのが嬉しかった。「生かされたのはまだやる事があるからだろう、与えられることは何でもやろうと思つた」これからは物事を単純に見、畑で食べ物を作り淡々と生きていきたいともいう。

インタビューの間、いつも芳郎さんの言葉の背後に、多くの沈黙という節度と思いやりを感じた。芳郎さんは、三年前より本格的に俳句を始めた。最後に一句。

煮凝に手酌となりし妻の留守  
(聞き手 李章根)

# あじさい日記

2月14日 山梨県都留市から大學生の神馬マリコさん、松本淳平さんが来邑して17日まで交流の家に滞在されました。

2月15日 大倭神宮月次祭。

2月16～17日 青森県弘前市の石田勝利・晶子夫妻が来邑されました。本文5～6頁をお読み下さい。

2月21日 夜、交流の家でF1 WC定例委員会。

2月23日 午後1時（来年からは1時30分）より大倭神宮で申孝祭が行われた後、引き続き大本宮拝殿で月次祭。祭典後、昭和37年の申孝祭での法話の録音テープを聞かせて頂きました。昇ちゃん『おおやまと』紙で今年の文化行事予定を見て以

## ご協力御礼

ようやく春らしい日々となって参りましたが、皆様にはお変わりありません。先年来より法主様の奥津城整備のために多くの皆様方からご芳志を頂いております。本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。法主様の「帰幽満十年（平成十八年）を期に、とにかく奥津城中心部分を完成させたい」と願っています。その折には皆様に「案内したい」と思っておりますが、まずは中間での御礼のご挨拶を申し上げます。

平成十六年三月吉日

宗教法人 大倭教

代表役員 矢追家麻呂



来、期待で胸がはりさけそう……という日々を過ごしています。2月26～28日 大倭病院とボランティアグループあじさいの箱の第13回合同作品展。今年は新しい方の作品発表も多く約170人の来訪者があつたそうです。

3月6日 大倭神宮月次祭。この日の天候は強風に雨、雪でしたが祭典の時は外でできました。舞踏家の山田うんさんという女性が甲野善紀さんから聞いたそうでお参りされました。3月10日 紫陽花邑で、うぐいすの初音を聞きました。



大倭安宿苑では（菅原園）2月6日 菅原園東棟の解体工事が本格的に始まりました。長年慣れ親しんだ建物があつという間に取り壊され、涙ぐむ住居者もいました。（写真上・解体前、下・解体後）

工事は順調に進んでいます。が、大型ダンブカーなどの出入りが多いため、邑に来られる方はご注意ください。（須加宮寮）2月26日 各住苑者が好きなメニューを注文して希望昼食会を行いました。（長曾根寮）

## お願いとよびかけ

法主様ご帰幽満10年を記念して大倭大本宮で計画しておられる法主様奥津城の整備造成に、何卒各人の分に応じご協力をお願いします。

大倭会会長 中西 正和

1. 奈良信用金庫 学園前支店 普通0302639  
口座名 大本宮特別整備基金 中西正和
2. 郵便振替口座 00900-6-241836  
口座名 大倭奉賛会

## 編集後記

▼最近、「地下水の精神とは？」と自問自答しています。見えなるところで清く流れ、様々な生

2月26日 ボランティアによる美容教室が行われ、参加者はお化粧を楽しみました。（八重垣園）2月11日 長曾根寮からの参加者も交え、コーラス喫茶MOM Oが開かれました。2月18日 俳句の会。「輝いてシルバークーラス春の歌」「風花を顔にまといてひた戻り」

# あんない

\* 月次祭（大倭神宮）  
4月6日（火） 午後2時より大倭神宮にて。  
\* 須佐緒祭（大本宮）  
4月8日（木） 午前11時より大倭大本宮拝殿において祭典を行い正午より各自持参の弁当などで園遊会を行います。

すきのお祭とは、宇宙万物一切の顕幽両面における一体のもとなる須佐（結び）の緒に感謝をするお祭りです。  
\* 大倭会主催第四二五回禊会  
4月11日（日） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。  
\* 箭負祭（大倭神宮）  
4月15日（木） 午後2時より大倭神宮にて。

箭負祭とは、皇祖天神の鎮ります登美の神奈備（大倭神宮）の靈威を法主日聖大恩師の遠祖（箭負氏）が代々祭祀し、神仕えしてきたことを記念するお祭りです。  
\* 月次祭（大本宮）  
4月23日（金） 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

命を潤し育んでいるのが地下水だとするならば、人知れず、淡々と、清い心で、様々な息吹に気持ちと行動を注ぎ込むという感じでしょうか。皆様はどんなイメージが湧いてきますか？（鶴）